

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル（科目名） 幼稚園教育実習指導Ⅰ	授業の種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する 実務経験 保育士
授業の回数 12 回	時間数（単位数） 24 時間（ 1 単位）	幼稚園教諭専攻科 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい及び概要] 教育実習は、授業で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教員の使命感を身に付け、教育職としての資質を向上することを目的とする。 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身に付ける。具体的には、管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営等について講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。 学生は実習において、幼児の生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教員に指導・助言を受ける。その際、幼児及び児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1、講義概要 教育実習の意味 実習に向けての自己課題 2、子ども理解と援助 ・ 支援技術の理解 教育環境と子どもの実態 3、実習に必要な心構え、マナー、資質の理解 4、指導案、記入に必要な事項 5、子どもの活動と教師の援助、支援 6、指導案一枚の中の関連 7、指導案作成 題材、活動内容等の記入 8、指導案作成 援助、支援等の工夫 9、模擬保育の実施 その1 10、模擬保育の実施 その2 11、模擬保育の実施 その3 12、子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1 13、子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2 14、目ざす保育と自己課題の再設定 15、まとめ			
[使用テキスト] 「教育実習（初等）の手引き」 「参考文献」 文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 ・ 花篤實 他著「造形表現 実技編」三晃書房			

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。